

# 2022年度 検索技術者検定

## 2級 試験問題(後半)

### 注意事項

1. 着席したら、受験票を机の上に置いて下さい。
2. 解答用紙の所定の欄に受験番号・氏名を必ずご記入下さい。
3. 解答時間は、15：30～16：30の60分間です。
4. 中途退席はできません。
5. 問題は2問、全5ページ、解答用紙は3ページです。確認の上、落丁・乱丁・印刷不鮮明のもの等がありましたら、手をあげて試験官にお知らせ下さい。
6. 解答は、問題文の指示にしたがい、解答用紙にご記入下さい。  
(解答用紙裏面への記入は無効です。)
7. 問題の内容に関する質問は一切できません。
8. 試験問題は持ち帰って結構です。  
また、受験票を忘れずにお持ち帰り下さい。

問13 以下の**5題（【1】～【5】）**から**1題を選択し**、問題文にしたがって解答しなさい。解答は1題につき解答用紙1ページを使用し、**選択した問題の番号を解答欄に記入しなさい。**

**【1】** あなたは図書館員です。ある日、利用者が「RPA（Robotic Process Automation）について日本語で書かれた図書を探しているが、見つからない」と相談カウンターにやってきました。そこで、以下の設問（1）～（2）に答えなさい。

（1） 利用者にアドバイスすることは何か。5つあげなさい。

（2） 利用者に回答した後、回答内容を記録しておくメリットを5つあげなさい。

**【2】** 国内の某大手企業について、直近3年以内に発生した不祥事をリストアップしたいとの相談を受けた。このような依頼を受けたときの対応として、以下の設問に答えなさい。

（1） 「不祥事」とはどのような事象が考えられるか。具体的な例を2つあげなさい。

（2） 本件に関する情報源としては、以下の3点が考えられる。それぞれについて、調査のポイントを説明し、かつ、情報源の具体例を2つあげなさい。

- ・官公庁が公表している資料
- ・当事者である企業側が公表している資料
- ・新聞・雑誌メディアなど第三者が出している媒体

【3】 あなたは、ある企業の知財部員です。自社の新規ソリューション開発部署が、DX (Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション) を遂行することになりました。その時に特許情報を事業形態に合わせて即時に活用するために、事業部門専用の特許情報データベースを構築する相談を受けました。

そこで活用目的の把握と仕様の確認のためヒアリングを実施し、その結果を踏まえ以下のような構築方針を決定しました。

---

・本特許情報の活用目的は、高頻度で行う開発会議で利用する資料とする。具体的には、開発部署が選定した競合他社の開発動向に関して、権利存続中の特許を利用したパテントマップによるマクロ解析を行うことで競合他社が注力している領域の動向を把握すること。過去 10 年分の動向の時系列的変化を把握する。

・人手不足によりサーチャージャーによる特許公報の振り分けが困難なため、開発部署と協力して作成した教師データをもとに構築した自然言語処理 A. I. を利用して、母集合に対して特許公報の該当とノイズの振り分けを行うことにした。また、パテントマップ作成の自動化と A. I. の稼働のため、社内に専用のデータベースを作成し、(i) データベース会社が提供している API (Application Programming Interface) を用いて商用特許データベースからデータを毎週一回知財部にて取り込んで社内の専用データベースに収録することにした。収録する項目は特許の抄録データ及び A. I. による判断対象となる各種データとする。また、開発部署は社内の専用データベースにのみアクセスして利用するものとする。

・(ii) 本データベースの対象となるビジネスは日本と米国で行う予定であり、日本と米国で開発が行われているとの推定結果から、収録対象国は JP と US とした。本データベースへの収録は生存中の特許だけでよいとの依頼部署からの回答を受け、各国特許庁発行の権利状態を商用特許データベースのダウンロード項目に含め、更新時に拒絶査定(米国では final office action)や特許料未納付による権利消滅に変化した特許データを本データベースから削除することにした。

\*下線部 (ii) の文章中に誤植がありましたので、修正いたしました。

---

開発部署と共同で A. I. 用の教師データを作成した。その教師データを利用してノイズ落とし用の A. I. を構築した。社内では A. I. モデルを①と②の2種類用意しているため、両方のモデルで A. I. を構築した。

構築した A. I. モデルの品質を評価してどちらの A. I. モデルを利用するかを決めるため、ランダムな抜き取り標本で作製した検証データの中身を直接見ることで品質評価を行い、A. I. 付与結果と比較したところ以下のような結果となった。

A. I. モデル①の評価

		A.I.①による判断結果	
		ノイズ	該当
よ 検 証 判 デ 断   結 タ 果 に	ノイズ	15	25
	該当	10	50

A. I. モデル②の評価

		A.I.②による判断結果	
		ノイズ	該当
よ 検 証 判 デ 断   結 タ 果 に	ノイズ	25	15
	該当	15	45

(iii) 上記結果によると、A. I. モデル①の再現率は  $50/(10+50)=0.83=83\%$  で、精度は  $50/(25+50)=0.66=66\%$  であった。(端数切捨て) 一方で、A. I. モデル②の再現率は (A) %で、精度は (B) %であった。

- (1) 下線部 (i) において特許データベースを選定するうえで考慮すべき点を2つ指摘しなさい。(考慮すべき点が3つ以上存在しても2つでよい。)
- (2) 下線部 (ii) の記載には修正すべき点が2つある。その修正箇所と修正内容を説明しなさい。
- (3) (A) ~ (B) に適切な数字を記入しなさい。なお、記入する数字は整数とし、小数点以下は切り捨てるものとする。
- (4) 本業務にて構築する特許データベースでは A. I. モデルとして①と②のどちらを採用すべきかを解答しなさい。また、その理由について下線部 (iii) の解答内容を踏まえて説明しなさい。なお、A. I. モデルの違いによる抽出内容の偏りはないものとする。

【4】 検索システムの CAS STNext に含まれる REGISTRY ファイルを用いた化学物質の検索について、以下の設問に答えなさい (CAS STNext は従来の STN のコマンド検索が可能)。

- (1) 化学物質の完全名称を使用して物質の辞書検索をする際に、名称の入力ミスを防止するために使用できる検索方法について説明しなさい。
- (2) 化学物質の部分名称から検索して多数の回答解答が得られた際に、目的物質に絞り込むための検索方法について2つ述べなさい。
- (3) 化合物Aを成分とした塩などを含む多成分物質について CAS 登録番号を用いて網羅的に検索する方法について述べなさい。

【5】 消化性潰瘍の治療薬である Histamine H2 Antagonists について、以下の設問について答えなさい。

- (1) 文献データベースを使用して、主な Histamine H2 Antagonists の薬剤名 (一般名) を調べる方法を述べなさい。
- (2) 調べた薬剤名を使用して、それらの副反応に関する文献を検索する方法を MEDLINE か Embase を例にして簡単に述べなさい。
- (3) MEDLINE と Embase で薬剤について検索すると Embase の方がヒット件数が多い可能性が高いが、その理由について述べなさい。

問14 以下の**2題（【1】～【2】）**から**1題を選択し、問題文にしたがって解答**しなさい。解答は1題につき解答用紙1ページを使用し、**選択した問題の番号を解答欄に記入**しなさい。

**【1】** 情報検索の専門家であるあなたは、外部のクライアントより、あるテーマについて調査を打診され、当該クライアントに対してレファレンスインタビューを行うことになった。事前の情報により、当該クライアントは、高い再現率を希望していることがわかっている。

- (1) レファレンスインタビューにおいて、確認すべき事項を3点あげなさい。
- (2) 検索を実施するプロセスを説明しなさい。
- (3) 「再現率」について説明をしなさい。
- (4) 「再現率」を上げるための検索方針について説明しなさい。

**【2】** あなたが所属する調査部門の利用者用端末で、ランサムウェアに感染した旨の表示がなされた。そこで、以下の設問について答えなさい。

なお、前提として、無線LANで接続されている端末であり、レポート等が作成できるよう、いわゆるオフィススイートアプリもインストールされているものであることとする。

- (1) 感染した旨の表示を確認した後、すみやかに行うべきことを2つあげなさい。
- (2) 問題が解決したとして、解決後1週間以内を目途に行うべきことを2つあげなさい。
- (3) このような問題が発生しないように留意すべき点を2つあげなさい。